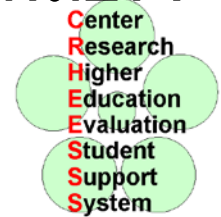


週刊センターニュース

No.277



第277号(2009年9月24日)木曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第245回共同学習会のご案内 ○●○

主催: 大学教育開発・支援センター

企画: 教育企画会議就職支援部会

日時: 9月29日(火) 16時30分～18時 ※開催曜日が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス 総合教育1号館2階 会議室

テーマ: 「大企業, 首都圏企業の就職状況-就職支援力を高めるために5-」

報告者: 採用プロドットコム株式会社代表取締役 寺澤康介

内容: 教育企画会議就職支援部会では、現在の経済状況等を背景に、大学として、また個々の教職員が学生の就職活動をどのように支援していくべきか、学内外からの情報をもとに、継続的に議論の場を設けている。シリーズとしての第5回は、多くの企業の採用担当者が登録・活用している専門サイト「採用プロ.com」の寺澤氏に、主要企業の採用戦略のポイントについてご講演いただく。おりしも、学生たちの首都圏での就職活動のサポートポイントとしての役割も担った、本学の新しい東京事務所が、今夏、日本橋にオープンした。首都圏を中心とした大企業に就職を希望する学生たちをどのように支援すべきか、認識を深めるため、広く、教職員・学生・院生の参加を求めたい。

○●○ 教養教育・専門基礎教育を考える上での参考事例 ○●○

大綱化以降、教養教育が迷走し専門教育重視の傾向に拍車がかかっているといわれる中で、文理融合リベラルアーツ教育などの標語をもって教養教育重視の学士課程への再編を行う大学が散見される一方、金沢大学は、初学者ゼミの導入を中心とした教養教育カリキュラム刷新、学域・学類制への移行に伴う経過選抜制、副専攻制の導入、専門科目としての学域・学類共通科目の新設など、アメリカや欧州とは異なる日本独自の学士課程カリキュラムの1つの進化モデルを提示しているといえるであろう。今後は共通教育、専門基礎教育のコアとなる教育内容は何かについての議論を通して共通教育科目、学域・学類共通科目の全学での点検が必要と思われる。初学者ゼミについての継続的な教育改善も課題であろう。以上の視点に基づき、当センターが入手した報告書[1,2]から本学にも参考になると思われる事例を紹介したい。

筑波大学は平成19年4月に従来の学群・学類の改組を行い、同時に「筑波スタンダード」と称する指針に基づき教養コアカリキュラムの整備に着手した[1]。(その概要については、今年3月に東京で開催された金沢大学シンポジウム「日本の未来を担う人材育成・教育改革モデルの構築」において筑波大学学長補佐の石田東生教授が講演された。)具体的には、従来の総合科目のなかから重点支援科目を選定し、モデル授業としての開発を通してコア科目を設定しようとするものである。結果として、文系学生のための理系導入科目(=コアサイエンス)と理系学生のための人文系導入科目(=ヒューマニティーズ・コア)が構想された。コアサイエンスについては「現代人のための科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」として今年度より開講されている。事実の寄せ集めではなく科学的な手続きの理解に至るような内容とし、また現象を探り定量的に記述するために実験と数学とがいかに有効であることを示すことをガイドラインとして定め授業内容について議論された。シラバスを見ると大人数講義であるにも関わらず議論や赤外線応答システムであるクリッカー(当センターも所有している。)を用いて学生に考えさせることを意識した授業設計が伺われる。また、博士後期課程の優秀なTAに大学教員のプレFDを意図した一定の研修を義務づけた上で、大学院キャリア教育の中に位置づけるTF(ティーチング・フェロー)として採用し上記の教養コア科目に連結するディスカッションクラスやレポート執筆のトレーニングクラスを担当させることが予定されている。このような教養コアの開発やTA制度の実質化

については、リベラルアーツカレッジをはじめとするアメリカの大学のコアカリキュラムや TA 制度に関する調査研究に基づいた北海道大学の先行事例がよく知られている。

アメリカの大学におけるリベラルアーツの伝統的授業スタイルは、少人数での討論を中心に据えたものといわれている。教員の思考プロセスをさらけ出す中で人格教育も含めた学生主体の授業といえるであろう。専門教育に特化した学士課程カリキュラムを持つ欧州の大学においてもリベラルアーツの教育理念は生きている。東京農工大学の吉永契一郎先生のオックスフォード大学物理学科の訪問調査の報告[2]は興味深かったのでここで概要を紹介したい。オックスフォード大学物理学科のカリキュラムには人文社会系科目、語学科目、体育科目は一切含まれていない。物理エリート養成に特化したカリキュラムといえるであろう。それでは教養教育はいかに行われるのであろうか。それは、1年次に開講される Transferable Skills と呼ばれるコミュニケーション・スキルなど汎用的能力の修得を目的とするガイダンス科目と1～4年次に継続して開講されるチュートリアル（物理の演習）による。物理学科の学生と教員は28のカレッジ（寮）に所属し、3年次までのチュートリアルはカレッジで週4時間、2名の学生を1名の教員が担当する。そこでは学生自身が解法を解説したり、教員がプロセスを再認識させることによって学生の疑問点を自発的に解消させたり、教員が即興で応用問題を出したり、教員と学生との密接なつながりがある。またカレッジでの日常的な教員との接触によって知的・人間的な刺激を受けることも多い。このような恵まれた環境は我が国の多くの大学では難しいとしても、初年次少人数ゼミナールは大きな可能性を持っていると思う。学士課程教育を改めて考える上での大きな課題と思われる。（文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭）

[1]「筑波スタンダードに基づく教養教育の再構築—世界水準を目指す全学的取組み（中間報告書）」筑波大学教養教育機構 2009年3月

[2]吉永契一郎「学部段階における専門教育の高度化—オックスフォード大学物理学科の事例から」2006～2008年度大学教育学会課題研究報告書「学士課程における新しい理系専門基礎教育のあり方」2009年6月

○●○ 大学コンソーシアム石川 FD 研修会開催のご案内 ○●○

第2回

日時：平成21年9月30日（水）13時30分～15時

会場：石川県広坂庁舎2階 いしかわシティカレッジ

主催：大学コンソーシアム石川

講師：寺澤康介氏（採用プロドットコム株式会社代表取締役）

テーマ：「2011 就職戦線を占う」

趣旨：かつてない不況の中で、大学等が今なすべき就職支援はどうあるべきか、という喫緊の課題について、首都圏を中心とした企業の採用担当者等の意向に詳しい講師にレクチャーをしていただく。大学等の就職支援担当教職員はもちろん、県内の各企業の採用担当者、そして学生、一般市民など幅広く参加を求めたい。

第3回

日時：平成21年10月1日（木）10時30分～12時

会場：金沢大学角間キャンパス 総合教育1号館2階会議室

主催：大学コンソーシアム石川 共催：金沢大学大学教育開発・支援センター

講師：坂詰 貴司氏（東京、芝中学校・芝高等学校教諭）

高等教育研究情報誌『Between』（進研アド、Benesse 教育研究開発センターHP に掲載）において、大学関係者に積極的に提言するなど、高校の側からの発信を続けている。オセアニア教育学会理事、元広島大学高等教育研究開発センター客員研究員。

テーマ：「リメディアル教育と高大連携」

趣旨：最近の入学試験は各大学で様々な方式を採用しています。そのためにリメディアル教育の必要性が高まっています。昨年6月、国立大学協会も中教審に対する意見書の中で、「目的意識や学習意欲の少ない学生に対してリメディアル教育などを実施しなければならないという現実」について指摘しています。今回は大学教育関係者、中等教育関係者はもとより、教育に関心をお持ちの一般市民の皆様と、よりよいリメディアル教育について、高大連携の観点から考えてみたいと思います。